

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果

4月18日に実施した令和6年度の「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されましたので、様似町の状況を次のとおりお知らせします。

調査の概要

○対象 小学校6年生の児童及び
中学校3年生の生徒

○内容 ①教科（国語、算数・数学）に関する調査

②学習意欲、学習方法、生活面などに関する児童・生徒質問紙調査

様似小学校

①教科に関する調査の結果

小学校では、全国平均正答率と比較して、国語は6.3ポイント、算数は3.6ポイント上回りました。それぞれの教科の調査結果は、次のとおりです。

【国語】平均正答率が全国よりも高かったのは、「文の成分の順序や照応について理解している」、「話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができる」などです。また、全国よりも下回ったのは、「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができ」、「目的に応じて必要な情報に着目して要約することができ」などでした。

様似中学校

①教科に関する調査の結果

中学校では、全国平均正答率と比較して、国語は8.1ポイント、数学は7.5ポイント下回りました。それぞれの教科の調査結果は、次のとおりです。

【国語】平均正答率が全国よりも高かったのは、「文の成分の順序や照応について理解している」、「話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができる」などです。また、全国よりも下回ったのは、「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができ」、「目的に応じて必要な情報に着目して要約することができ」などでした。

【数学】平均正答率が全国よりも高かったのは、「問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる」、「複数の集団のデータ分布から、四分位範囲を比較することができる」などです。また、全国よりも下回ったのは、「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる」、「複数の集団のデータ分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」などでした。

＜数学＞

区 分	平均正答率（％）	平均正答数（全 16 問）
全国	52.5	8.4
北海道	51.0	8.2
様似中学校	45.0	7.3
全国差	△ 7.5	△ 1.1

＜国語＞

区 分	平均正答率（％）	平均正答数（全 15 問）
全国	58.1	8.7
北海道	58.0	8.6
様似中学校	50.0	7.5
全国差	△ 8.1	△ 1.2

討することができる」などです。また、全国よりも下回ったのは、「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる」、「人物像を具体的に想像することができる」などでした。

【算数】平均正答率が全国よりも高かったのは、「問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができる」、「直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解している」などです。また、全国よりも下回ったのは、「計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できる」などでした。

＜国語＞

区 分	平均正答率（％）	平均正答数（全 14 問）
全国	67.7	9.5
北海道	67.0	9.3
様似小学校	74.0	10.3
全国差	6.3	0.8

＜算数＞

区 分	平均正答率（％）	平均正答数（全 16 問）
全国	63.4	10.1
北海道	61.0	9.7
様似小学校	67.0	10.8
全国差	3.6	0.7

【生徒質問紙調査（質問内容を一部抜粋）】

全国と比べて、○は良かった項目、●は悪かった項目

当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答	様似中	全国	全国差
○朝食を毎日食べている	96.8%	91.2%	5.6%
●学校に行くことが楽しいと思う	74.2%	83.8%	△ 9.6%
○いじめはどんな理由があってもいけない	100.0%	95.7%	4.3%
○人が困っている時は、進んで助けている	100.0%	90.1%	9.9%
●自分と違う意見について考えるのは楽しい	67.7%	76.2%	△ 8.5%
●友達関係に満足している	83.8%	90.1%	△ 6.3%

②生徒質問紙調査の結果

【児童質問紙調査（質問内容を一部抜粋）】

※全国と比べて、○は良かった項目、●は悪かった項目

当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答	様似小	全国	全国差
●朝食を毎日食べている	91.3%	93.7%	△ 2.4%
○自分にはよいところがあると思っている	95.6%	84.1%	11.5%
○学校に行くことが楽しいと思う	91.3%	84.8%	6.5%
●友達関係に満足している	86.9%	91.1%	△ 4.2%

②児童質問紙調査の結果

平日の家庭学習時間の質問で、2時間以上していると答えた児童はいまみせんでしたが、「1時間以上2時間未満」、「30分以上1時間未満」と答えた児童の割合が昨年度より大きく増えています。また、学習指導において、「児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫した」と答えた児童の割合が全国平均を大きく上回っています。これらのことが全国平均正答率を上回った要因の一端として考えられます。

＜平日の家庭での学習時間＞

区 分	様似小学校	全国
3時間以上	0.0%	11.0%
2時間以上3時間未満	0.0%	12.5%
1時間以上2時間未満	30.4%	31.1%
30分以上1時間未満	30.4%	27.0%
30分未満	34.8%	13.0%
全くしない	4.3%	5.3%

＜平日の家庭での学習時間＞

区 分	様似中学校	全国
3時間以上	0.0%	9.2%
2時間以上3時間未満	3.2%	22.5%
1時間以上2時間未満	12.9%	32.6%
30分以上1時間未満	38.7%	18.4%
30分未満	41.9%	10.4%
全くしない	3.2%	6.6%

平日の家庭での学習時間の質問を見ると、「3時間以上」、「2時間以上3時間未満」、「1時間以上2時間未満」と答えた生徒の割合が全国平均よりも下回っているほか、「30分未満」と答えた生徒の割合は全国平均よりも大きく上回っています。また、平日の携帯電話やスマートフォンでのSNS・動画視聴使用時間の質問から「4時間以上」、「3時間以上4時間未満」、「2時間以上3時間未満」と答えた生徒が全体の8割で、家庭での学習時間の減少の要因の一つになっていると考えられます。